2022年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会

議　案　書

2022年8月12日（金）
つくば国際会議場
（〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3）

【2022年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会　議案】

第 1 号議案：2021 年度事業報告と 2022 年度事業計画承認の件 ----------3
第 2 号議案：2021 年度決算報告承認の件
・財政報告 ----------6
・貸借対照表 ----------8
・損益計算書 ----------9
・計算書類の注記表 ----------10
・附属明細書 ----------11
・監査報告書 ----------12
第 3 号議：2021 年度収支差額処分承認の件 ----------13
第 4 号議案：2022 年度予算承認の件 ----------14
第 5 号議案：CIEC 役員選挙実施の件 ----------17

【資料】

資料 1. 2021 年度活動報告と 2022 年度活動方針 ----------18
・専門委員会
・部会
・支部
資料 2. 中期活動計画中間報告 ----------28
資料 3. CIEC 活動報告 ----------34

2022 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会議案書
議案 1.　2021 年度事業報告と 2022 年度事業計画承認の件

1996 年 7 月に設立された CIEC は、2013 年 6 月から一般社団法人 CIEC として、設立以来の目的を引き継ぎながらこの 9 年間活動してきました。本議案では、2021 年度の事業報告と 2022 年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる 2021 年度の取り組みの要点と 2022 年度事業方針について記します。

１．学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIEC は 1996 年 7 月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013 年 6 月に一般社団法人 CIEC となり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

「未来の教室」実証事業における、「学びの STEAM 化」、「学びの個別最適化」、さらに「1 人 1 台端末」環境の創出としての GIGA スクール構想など、近年の学校教育を取り巻く状況は大きく動いており、一昨年来の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、オンライン授業の必要性が高まったことを背景に、その動きは加速されつつあります。特に、著作権法第 35 条の改正に基づく「授業目的公衆送信補償金制度」により、オンライン授業における著作物の取り扱い環境も変化してきました。そして、学習指導要領の改訂も進み、2025 年の共通テストでは新科目「情報」の追加が決まっており、論理的思考能力としてのプログラミングやデータ分析力が問われています。さらに、大学・高専においては、「AI 戦略 2019」に基づく、「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度」により、同教育が促進化されることが予想されます。このような背景を踏まえ、今後、デジタル社会を牽引していくことのできる人材を育てていくことが望まれていると考えられます。

CIEC は、長年取り組んできた ICT を活用した学びから得られた成果を社会に発信していくとともに、新しい情報技術とコミュニケーションの在り方を問い続けてきましたが、教育現場におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速する今こそ、CIEC のミッション、ビジョンを再定義し、新しい一歩を踏み出していく時期に来ていると考えられます。そこで 2022 年度は、委員会、部会、支部の連携をさらに強化し、活動を活発化させることで、ICT を活用した学びに関わる情報交換・情報発信の場としての CIEC の魅力をアピールしていきます。また、「教育改革のパイオニア」としての CIEC を再定義することを目的に、昨年「CIEC 中期活動計画」を決定しました。この一年、各ワーキンググループで課題を整理した上で、具体的な取り組みに着手してきましたが、それを踏まえ、今年度はさらにその取り組みを加速させ、課題となっている内容の具体化を促進してまいります。

２．PC カンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2021PC カンファレンス」は、COVID-19 感染拡大を受け、2021 年 8 月 20～23 日に、全国大学生活協同組合連合会との共催のもと、402 名の参加で完全オンラインにより開催されました。オンライン開催を考慮し、新しい試みとして、1 日の開催スケジュールにゆとりを持たせ、会期を 4 日間としました。COVID-19 の世界的拡大（パンデミック）は明らかに人類にとって脅威であり、私たちは多くのことを体験し、そこから学ぼうとしています。この脅威から（まだ現在進行形ですが）学ぶべきであるという意味から「ニューノーマル（新常態)」という提起がされています。私たちは、今までの考え方や方法を大きく変える必要があるでしょうし、まさにこれまでの「ノーマル」、常識、正しいとされていたあり方というものが否定され､新たな常識というものを生み出し移行することが求められています｡このことは、社会のあらゆる領域で求められている課題ですが､もちろん教育･学習領域にも適用されます｡そこで、2021PCC ではニューノーマル時代の教育・学習」を全体テーマとして、改めて教育・学習の原点を立ち

返りながら、その「明るい未来」について考えるカンファレンスとなりました。

2021PCC では、基調講演、シンポジウムを 2 セット企画しました。初日の基調講演１では「進む教育の「個性化」- 学習パラダイムのさらなる促進と高まる ICT 利用を踏まえて -」、「創造性の民主化時代 - 21 世紀を躍動させる“プレイフル STEAM”の哲学 -」の二講演を行い、それを受けて、シンポジウム 1「2030 年のニューノーマル：新たな教育・学習を語るキーワードから未来を描く」が行われました。二日目は基調講演 2「テクノロジーが広げる外国語学習の一歩先　～STEAM につながる学びの可能性～」を踏まえ、シンポジウム 2「『探究』の一歩先へ　～STEAM 教育を考える～」が行われました。分科会では、ポスター発表をとりやめ、94 件の口頭発表がありました。その中には、初めて U-18 を対象にして設けられたセッションで、10 本の発表がありました。この U-18 を対象にしたセッションは、春季カンファレンスで実施してきた経験が活かされています。

「2022PC カンファレンス」は、3 年ぶりにつくば国際会議場で、8 月 11～13 日に対面での開催となります。全体テーマは、「学びのアタリマエを揺さぶる」です。私たちの毎日というものはその日常がずっと続くように思い込んでいることが普通なのですが、想定外のことが起こった時、そうではないのだと気づかされ驚いてしまいます。このような現代社会における学び・教育もまた今までの延長であっていいわけではなく、これまでアタリマエに思ってきたことを問い直すことが求められています。そこで、教育に関わる者は常に今まで大事にしてきたことの価値を問い直し、未来に求められるであろうことをビジョナリーに自ら探求することが求められるのではないかということから、2022PCC では学習・教育に関する様々なアタリマエを揺さぶってみて、これからの学習・教育をみんなで探求する機会の一つにできたらと考えています。

３．みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の 4 つの委員会が理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調整・管理を行っており、今年度も研究大会として「CIEC 春季カンファレンス」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.13」を刊行しました。COVID-19 感染拡大状況を考慮し、春季カンファレンスは、昨年に続きオンラインでの開催となりました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ＆エデュケーション』の編集を担当し、51 号と 52 号を刊行しました。49 号から、会誌編集に関わる作業の情報化を進めるために、オンライン投稿・査読システムを導入して編集作業が行われています。広報・ウェブ委員会は CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2021 年度も、研究会、カンファレンスなどのオンラインイベントの開催を積極的にサポートしました。そして、2022PCC からは公式サイトの運営を担当しています。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて情報提供をすすめております。2021 年度は PC カンファレンス北海道の特別講演を共催し、韓国高麗大学から Zoom で講演が行われました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の 3 地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PC カンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC 研究会を 3 回実施しました。また、昨年からの新たな試みである、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会としての「CIEC サタデーカフェ」の開催が 10 回を数え、軌道にのっています。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当て PC カンファレンスでセミナーを企画開催しました。2018 年に発足したオープン・エデュケーション部会は、諸般の事情より 2021 年度は解散いたした。一方で、2022 年からは「数理・データサイエンス・AI 教育研究部会」の設立が認められ、活動を開始する予定です。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の 2 つが活動しています。北海道支部では、オンラインにより 11 月に PC カンファレンス北海道を開催しました。2022 年度の PC カンファレンス北海道は、10 月あるいは 11 月に開催を予定し

ております。九州支部では、鹿児島大学をホスト校として、九州 PC カンファレンスをオンラインで開催し、2022 年度も開催を予定しています。

４．個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度 669 名(2022 年 4 月）となりました。近年は個人会員数が減少傾向にありますが、これに歯止めをかけられるよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PC カンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は 75 団体(2022 年 4 月）であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

５．広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年 2 回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGE で公開されており、最新号も発行の 6 か月後には公開されます。

また、Facebook、Twitter の CIEC 公式 SNS での情報発信を強化し、CIEC ホームページも内容も随時更新することにより、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIEC について社会に発信すること、多様な会員の研究・実践の広がりの見える化等のために開始した会長発信企画「会長インタビュー」は CIEC ホームページの「Special」でこれまで 9 本の掲載を行い、その一部は、YouTube の CIEC 公式チャンネル（一般社団法人 CIEC）において、動画配信を行っています。今後、さらに充実させていく予定です。

６．財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も減少傾向が続いておりますが、特に COVID-19 感染拡大の影響による企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあると考えられます。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIEC の場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動への参加継続のため、終身会員制度の導入し、運用しています。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIEC の活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。また、D&I の観点からも女性役員の拡充に向けて努力しています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2022 年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slack などの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

以上

CIEC2021 年度財政報告

［概況］

2021 度決算は経常利益が 1,797,420 円の黒字となりました。オンラインでの開催が中心となった理事会や専門委員会等の会議費用、春季カンファレンスをはじめとした研究会、支部活動援助金および部会活動援助金もオンラインでの活動が中心となり、経費が予算を大きく下回りました。会誌発行費用は印刷費用などの増加により予算を上回りました。

その他経常外収入には、2021PC カンファレンスの開催にあたって全国大学生活協同組合連合会から支払われた「事務運営に関わる費用」1,000,000 円が含まれています。

会費収益は個人会員数、団体会員の会費口数の減少により予算を下回りました。

（文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て。詳しくは損益計算書をご覧ください）

〔経常損益の部〕

I.［経常収益］

1. 会費収益　989 万円／予算 1,050 万円

・　個人会員会費収入は 378 万円で予算対比 21 万円の減（-5%）、団体会員会費収入は 611 万円で予算対比 39 万円の減（-5%）となりました。

＜会員状況＞	2021 年 4 月 1 日	2022 年 3 月 31 日	2022 年 4 月 1 日
個人会員	686	703	669
団体会員	76	74	75

2. 財務収益　226 円／予算 2 千円

・　受取利息　226 円

II.［経常費用］

1. 事業費用　454 万円／予算 610 万円

(1)会議費用　32 万円／予算 85 万円

・　オンライン会議の開催で交通費が減少しました。

(2)会誌発行費用　324 万円／予算 300 万円

・　Vol.51、Vol.52 を発行しました。印刷費用が増加しました。

(3)広報費用　0 万円／予算 14 万円

(4)研究会費用　18 万円／予算 40 万円

・　春季カンファレンス及び第 126 回、127 回、128 回研究会を開催しました。
・　春季カンファレンス研究会論文集は PDF 版のみ発行しています。

(5)調査費　0 万円／予算 0 万円

(6)事業活動費用　6 万円／予算 20 万円

・　電子証明書費用です。
・　三役会議費用は理事会開催時の開催とオンライン開催のため計上されていません。

(7)支部活動援助金　60 万円／予算 61 万円

・　北海道支部 25 万円、九州支部 35 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8)部会活動援助金　　8 万円／予算 67 万円
・　小中高部会 8 万円、生協職員部会の支出はありませんでした。部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9)学会表彰事業費　　3 万円／予算 3 万円
・　2021 年度は学会論文賞 1 件の実績です。

(10)教育出版費用　0 万円／予算 0 万円

(11)周年事業費用　0 万円／予算 0 万円

(12)オンライン特別支援金　0 万円／0 万円

(13)中期活動計画調査費用　0 万円／20 万円

2. 管理費用　　355 万円／予算 440 万円
(1)ネットワーク運営費　　3 万円／予算 50 万円
・　保守管理業者委託費、サーバー更新料、ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス）の費用です。春季カンファレンス投稿用の費用を予算計上しましたが使用しませんでした。

(2)事務局通信費　　18 万円／予算 25 万円

(3)事務局業務委託費　　300 万円／予算 300 万円

(4)事務用品費　　9 万円／予算 20 万円

(5)備品購入費　　0 円／予算 9 万円

(6)管理委託費　　2 万円／予算 10 万円
・　会計システム費用です。

(7)雑費　　21 万円／予算 25 万円
・　個人情報取扱事業者保険料、書籍 JAN コード更新料、振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費　　0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課　　1 万円／予算 2 千円

〔経常外損益の部〕

III.［経常外収益］
雑収入　108 万円／予算 25 円
・　2021PC カンファレンス「事務運営に関わる費用」として全国大学生活協同組合連合会からの収入等です。

IV.［法人税等］
7 万円／予算 7 万円
・　法人都民税 7 万円です。

V.［当期利益金］
・　18 万円の黒字予算に対し 280 万円の黒字となりました。

以上

計 算 書 類

第１　貸借対照表

貸　借　対　照　表

2022年6月30日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	22,699,589	流動負債	5,925,057
現金及び預金	22,689,491	未払金	46,057
未収金	10,098	前受金	5,879,000
		負債合計	5,925,057
		（純資産の部）	
		その他	16,774,532
		正味財産	16,774,532
		繰越利益剰余金	16,774,532
		純資産合計	16,774,532
資産合計	22,699,589	負債・純資産合計	22,699,589

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型（改訂版）」（2015年5月7日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第２　損益計算書

損　益　計　算　書

（自2021年7月1日　至2022年6月30日）

（単位：円）

科　　目	金　　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	3,783,000	
2）　団体会員会費収入	6,110,000	
	9,893,000	
2　財務収益		
1）　受取利息	226	
	226	9,893,226
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	321,361	
2）　会誌発行費用	3,242,222	
3）　研究会費用	189,104	
4）　事業活動費用	62,700	
5）　支部活動援助金	609,797	
6）　部会活動援助金	87,216	
7）　学会表彰事業費用	30,000	
	4,542,400	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	34,925	
2）　事務局通信費	183,552	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	93,744	
5）　管理委託費	20,000	
6）　雑費	211,185	
7）　租税公課	10,000	
	3,553,406	8,095,806
経常利益		1,797,420
（経常外損益の部）		
Ⅲ　経常外収益		
1　雑収入	1,080,330	1,080,330
Ⅳ　税引前当期純利益		2,877,750
Ⅴ　法人税等	70,000	70,000
Ⅵ　当期純利益		2,807,750

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型（改訂版）」（2015年5月7日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第３　計算書類の注記表

１.重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

（１）　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

２.損益計算書に関する注記

（１）法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

３.金融商品に関する注記

（１）金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は１年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、１ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

（２）金融商品の時価等に関する事項

2022 年 6 月 30 日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定法方法については（注１）を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　価	差　額
①現金預金	22,689,491	22,689,491	－
資産計	22,689,491	22,689,491	－
③前受金	5,879,000	5,879,000	－
負債計	5,879,000	5,879,000	－

（注１）　金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1)　現金預金　（単位：円）

内　　訳		金　額
現金		581,731
当座預金	ゆうちょ銀行	4,693,440
普通預金	りそな銀行	5,295,521
普通預金	中央労働金庫	2,118,799
定期預金	中央労働金庫	10,000,000
合　　計		22,689,491

(2)　前受金

内　　訳	金　額
次年度個人会員会費	2,829,000
次年度団体会員会費	3,050,000
合　　計	5,879,000

2022年7月17日

監査報告

一般社団法人CIEC（コンピュータ利用教育学会）

監事　鳥居 隆司

監事　吉田 賢史

監事　柳田　　章

第9期事業年度（2021年7月1日～2022年6月30日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1．監査の方法及びその内容

定款及び監事が定めた監査方針に基づき、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また、随時説明を求めました。

2．監査の結果

1)　事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

2)　理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

3)　計算書類とその附属明細書は当法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3．追記情報

ありません。

以上

２０２１年度利益金処分案

Ⅰ	当期未処分利益金	16,774,532 円
Ⅱ	次年度繰越利益金	16,774,532 円

上記のとおり、 2021 年度利益金は 次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 ＣＩＥＣ（コンピュータ利用教育学会）

会長理事　　若林　靖永

2022 年度予算計画

I.［経常収益について］　1,050 万円

1.会費収益　　総額 1,050 万円

・個人会員会費収入は 400 万円の計画とし、PC カンファレンス会場での新規加入増を見込んでいます。
・団体会員会費収入は PC カンファレンスでの「教育・IT フェア」「団体会員発表セッション」の企画で新規加入の機会増を図り 650 万円の計画としています。

2.財務収益

・　受取利息で 2 千円を計上します。

II.［経常費用について］　　1,050 万円

1.事業費用　　総額 663 万円

1)会議費用　85 万円

・ オンラインでの会議開催を前提しますが，必要に応じて対面会議も実施します。
・ 総会費用は，20 万円を計上します。
・ 理事会は，8 月(2 回)、12 月、3 月、6 月の 5 回分をオンラインでの出席を前提とし、20 万円を計上しています。
・ 広報・ウェブ委員会はオンライン会議を前提とし、5 万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
・ 研究委員会は 10 万円を計上します。
・ 国際活動委員会は 5 万円を計上します。
・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 15 万円を計上します。
・ Zoom アカウント購入費用として 10 万円計上します。

2)会誌発行費用　350 万円

・12 月の 53 号、6 月の 54 号発行費用全体で 350 万円を計上します。(取材・送料込)。
・会誌発行費用には JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円、オンライン投稿システム費用として 30 万円が含まれます。
・またオンライン投稿システム費用の内訳は 129,600 円（年間サポート料）＋160,000 円（利用料@4,000 円×40 本程度）です。

3) 広報費用　14 万円

・HP 構築運用費として 10 万円を計上します。
・2020・2021 年度活動紹介のパネル作成費用としてその他費用を 4 万円計上します。

4)研究会費用　40 万円

・研究会費用は 1 回上限 15 万円です。
・春季カンファレンス経費（会場費、タイムキーパー費、論文賞副賞費等）を計上しています。

5)調査費用　0 万円

・2022 年度は調査を行いません。

6)事業活動費用　20 万円

・ 三役会議は、10 万円計上します。通常の三役会議はオンラインで行い、対面会議は理事会、PCC 実行委員会と同日開催にしますが、臨時開催費用 1 回分を計上します。
・ 事業委託費（電子証明書費用）は 10 万円を計上します。

7)支部活動援助金　61 万円

・ 支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8)部会活動援助金　67 万円
・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 67 万円計上します。小中高部会 60 万円，生協職員部会 7 万円です。

9)学会表彰事業費用　6 万円

10)教育出版費用　0 万円
・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11)周年事業費用　0 万円
・今期は計上いたしません。

12)オンライン特別支援金　0 万円
・今期は計上いたしません。

13）中期活動計画調査費　20 万円
・中期活動計画具体化のための調査費用を 20 万円計上します。

2. 管理費用　　総額 387 万円
1)ネットワーク運営費　5 万円
・サーバ更新料，　ドメイン更新費

2)事務局通信費　25 万円

3)事務局業務委託費　300 万円

4)事務用品費　15 万円

5)備品購入費　10 万円

6)管理委託費　6 万円
・システム運用費用として 6 万円を計上します。

7）雑費　25 万円
・振込，自動引き落とし，各種発行手数料などの費用として 25 万円を計上します。

8）予備費　1 万円

9）租税公課　2 千円

以上

一般社団法人CIEC2022年度予算案

（単位：円）

科　　目	金　　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	4,000,000	
2）　団体会員会費収入	6,500,000	
	10,500,000	
2　財務収益		
1）　受取利息	2,000	
	2,000	10,502,000
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	850,000	
2）　会誌発行費用	3,500,000	
3）　広報費用	140,000	
4）　研究会費用	400,000	
5）　調査費用	0	
6）　事業活動費用	200,000	
7）　支部活動援助金	610,000	
8）　部会活動援助金	670,000	
9）　学会表彰事業費用	60,000	
10）　教育出版費用	0	
11）　周年事業費用	0	
12）　オンライン特別支援金	0	
13）　中期活動計画調査費用	200,000	
	6,630,000	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	50,000	
2）　事務局通信費	250,000	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	150,000	
5）　備品購入費	100,000	
6）　管理委託費	60,000	
7）　雑費	250,000	
8）　予備費	10,000	
9）　租税公課	2,000	
	3,872,000	10,502,000
3　財務費用	0	
1）　支払利息	0	
経常損失金		0

CIEC 役員選挙実施の件

CIEC 役員選挙規約に基づき 2022 年度・2023 年度（2022 年度社員総会から 2024 年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事
団体会員の理事
監事

資料１：専門委員会、部会、支部 2021 年度活動報告と 2022 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

会誌編集委員会

1. 2021 年度活動報告

(1) 会誌「コンピュータ＆エデュケーション」51 号（2021.12.1）を発行しました。

- INTERVIEW 「認知科学から見た日本人の英語学習」
  今井むつみさん（慶応義塾大学環境情報学部・教授）に聞く／寺尾敦編集長
- 特集「小学校からのプログラミング教育がひらく新しい学び」：6 本／特集担当編集委員：篠田有史委員
- 2021PC カンファレンス報告「ニューノーマル時代の教育・学習」
- 研究論文 1 本／実践論文 6 本／実践報告 2 本／ソフトウェアレビュー1 本／本の紹介

※特集を除く一般投稿は 18 本で採択されたものは 10 本、採択率は 56%でした。

(2) 会誌「コンピュータ＆エデュケーション」52 号（2022.6.1）を発行しました。

- INTERVIEW：「学会のアイデンティティ」
  西端律子さん（畿央大学・教授）・高見澤秀幸さん（秀明大学・准教授）に聞く／寺尾敦委員長
- 特集「データサイエンス教育は何を目指しているのか―新学習指導要領における教科「情報」の役割と大学教育の役割―」：5 本／特集担当編集委員：吉田賢史委員
- 研究論文 4 本／実践論文 2 本／実践報告 1 本／ソフトウェアレビュー1 本／本の紹介

※特集を除く一般投稿は 14 本で採択されたものは 8 本、採択率は 57%でした。

(3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。
第 83 回：2021 年 8 月 22 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）
第 84 回：2021 年 10 月 9 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）
第 85 回：2022 年 3 月 26 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）

(4) 2021PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ＆エデュケーション』に採択されるために：Dos and Don’ts」パネリスト：寺尾敦（青山学院大学）、村上正行（大阪大学）、片平昌幸（秋田大学）を開催しました。

(5) 会誌 49 号からオンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、継続して運用しています。

2. 2022 年活動方針

(1) 会誌『コンピュータ＆エデュケーション』53 号および 54 号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ＆エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。

(2) 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第 49 号より導入）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。

(3) 会誌編集委員会を年 3 回程度開催する予定です。

(4) より質の高い論文等の投稿が増えるよう 2022PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナーを開催します。「CIEC 会誌『コンピュータ＆エデュケーション』に採択されるために―APA Publication Manual に学ぶ論文の書き方―」パネリスト：寺尾敦（青山学院大学）

(5) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。また、会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

(6) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

広報・ウェブ委員会

1. 2021 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2021 年度は、当初に定めた 2 つの活動方針にしたがって、以下の活動を中心に行いました。

(1) オンラインツールのさらなる活用による業務の効率化

Slack を本格導入してもうすぐ 2 年ですが、情報伝達のメインツールとしての認識は、関係者の間でそれなりに広まっているように感じます。事務局からの重要な連絡はメールも並行して送られてはいますが、会議等でも報告は事前に Slack へ、当日も Slack を参照して、というフローができつつあります。ワークスペース全体のメッセージは累計２万件を超え、有料プランの検討も視野に入れるべき段階に来ています。

また、これは（当委員会で組織的にというよりは）委員ごとの活動姿勢という側面が強いですが、連絡や相談をなるべく Slack に「後から参照しやすい記録として」残していくことや、Slack のリアクションを使って既読・承認を可視化していくことなどを、意識して行ってきました。

(2) 広報活動に関する関係者内外の認知度の向上

春季カンファレンス、北海道・九州 PCC、サタデーカフェなどにおいて、広報記事の投稿が少しつ出てきていることは、サイト運用の本来のあり方に近づいているという意味で、望ましいと感じています。特にお知らせ記事においては、更新のたびに新規に作成すること、それがアーカイブ（活動記録）となることを、関係者には繰り返し伝えてきました。それが、自然と実行される段階まで理解されてきたのではないかと捉えています。

加えて、これは 2021 年度当初の計画にはなかったことですが、2022 年度の PC カンファレンス公式サイトを作り変えるということになり、サイトの情報設計と、そのための事前ヒアリング、例年の更新作業時に問題となっている箇所の洗い出し等を行いました。2022 年 4 月 1 日にサイトは無事公開され、更新が続けられています。本稿執筆時点では、まだ分科会の個別発表ページなどの設計・公開が完了していない状況ですので、引き続き制作と更新業務を行っていきます。

2. 2022 年度活動方針

2022 年度は以下のような方針を念頭に活動を行います。

1. CIEC 公式サイト・SNS ツールの運用に加え、PCC 公式サイトの運用と改善
2. 中期計画の各ワーキンググループとの広報面での連携・技術支援
3. メディアを活かすコンテンツ作りに対する提案とサポート

項目 3 について補足します。上述のようにツールとして Slack 等を用いる習慣はできつつありますが、コンテンツを生み出す元になるコミュニケーションの中身としては、まだまだ旧来のやり方を引きずっている印象もあります。新しく自由な発想での発信やコミュニケーションが可能な土台を整備・運用するだけでなく、そこに載せるものをどんな方法で生み出していくかについても、委員が積極的に関わっていきたいと考えています。

国際活動委員会

1. 2021 年度活動報告

今年度もコロナ禍が治まらず、海外渡航など国際的な活動を行うことが難しい状況であった。そのような中で、2021 年 11 月 27 日（土）に行われた PC カンファレンス北海道（テーマ：コロナ禍を共有するアジアの教育）の特別講演を共催した。この特別講演は韓国高麗大学の李研究室の金子美氏により zoom を用いて行われた。通訳は国際活動委員会の鍵本聡氏が担当した。金氏は「コロナ禍における韓国の教育事情」というテーマで、高麗大学での取り組みを詳細に報告した。また、韓国の小中高校でのオンライン学習支援について、KERIS（韓国教育学術

情報院）の取り組みも紹介された。

2. 2022 活動方針

CIEC会員が海外の教育関連情報を収集することができるように支援し､その環境構築に向けた立案企画を行う。具体的には、新型コロナ禍の状況を見ながら下記のような活動を模索し、研究会や PCC 等につなげる。

- 韓国高麗大学の李研究室： 可能な状況となれば、以前行ったような日韓相互訪問などで関係を継続していく。両国の ICT 教育について共同研究を展開する。
- 中国長春の大学および中学高等学校： 一昨年の zoom を用いた日中間研究会開催の経験を生かして、今後の展開につなげる。
- 米国の ICT 環境と教育： 米国 UCOM Inc.（大学生協 USA 事務局）の役員 Hernandes 氏との関係から、相互訪問等のチャンスを探る。with コロナ政策をとる米国と日本の教育環境や教育スタイルの違い、米国デジタル教材・教科書の現状など、調査研究活動を計画する。
- 諸外国の教育状況調査： 上記以外の諸外国でも、コロナの感染拡大によってオンライン授業を余儀なくされ、教育 DX が推進された。諸外国における教育 DX や情報教育の動向の情報収集ならびに調査研究などを計画する。

研究委員会

1. 2021 年度活動報告

研究委員会は、会員相互の研鑽と交流の機会創出を目的とした研究会の企画・運営を行っています。また、本委員会が主催する春季カンファレンス（春季研究会）を定期的に開催しており、会員が研究発表・議論を行う機会を広く提供しています。2021 年度は当初の活動方針に従って、以下の活動をしました。

(1) 今年度企画された CIEC 研究会（第 126 回～第 128 回）について、企画・運営計画や実施状況などについて確認し、Web や ML にて告知をおこないました。

(2) 「CIEC 春季カンファレンス 2022」をオンライン開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.13」（電子版）を刊行しました。概要は下記のとおりです。

「CIEC 春季カンファレンス 2022」は、コロナ禍の状況を鑑みながら開催方法を慎重に検討し、前年度に続き当初よりオンライン開催として発表論文の募集をすることにしました。査読付論文には 8 編の投稿があり、査読の結果、速報論文 5 編、資料 2 編が採択されました。U-18 発表論文は、審査の結果、10 編が採択となりました。査読付論文を対象とした論文賞 1 件、U-18 発表論文を対象とした U-18 最優秀賞 1 件、U-18 優秀賞 2 件、U-18 奨励賞 2 件が、各賞の表彰となりました。

前年度との主な変更点として、（ｉ）採択件数が減少したため 1 日開催とした、（ii）一般論文（査読付）の投稿・査読手続きに投稿サイト（Editorial Manager）を導入した、等があげられます。

当日は、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、活発な質疑応答や議論が交わされ、大きなトラブルも無くスムーズにプログラムを進行できました。CIEC 春季カンファレンス 2022 に関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

開催概要

日程：2022 年 3 月 19 日（土）

会場：Zoom によるオンライン開催

発表件数：

・一般論文（査読付）発表：7 件（速報論文 5 件、資料 2 件）

・U-18 論文発表（概要審査）：10 件（小学生 1 件、高校生 9 件）

参加者：７０名

表彰：

◎論文賞：

戸塚芽依、菅谷克行（茨城大学 人文社会科学部 現代社会学科）

「オンライン授業内での議論における非言語情報の影響」

◎U-18 最優秀賞：

佐藤弘基、伊藤俊介、山本航紀、渡部翔太郎（群馬県立高崎高等学校）

「CO_2濃度と在室人数の同時測定システムの開発と数理モデルによる解析」

◎U-18 優秀賞：

・高田悠希（群馬県立高崎高等学校）

「スマート盲導杖「みちしる兵衛」 - AI 搭載白杖による視覚障害者歩行支援 - 」

・出口優人（東広島市立川上小学校）

「感覚情報処理障害（SPD）があっても学びたい

- 自分実験を通じての異空間同時双方向学習の効果の検証 - 」

◎U-18 奨励賞：

・浦田大智、齋藤ゆい（玉川学園高等部）

「お手伝いロボットの研究 - 現代版茶運びロボットの開発 - 」

・石井友基、稲岡歩望、岡田聖冬、堀尾将吾、宮下恭一（兵庫県立小野高等学校）

「Python を用いたカモの識別」

2. 2022 年度活動方針

(1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。

- 開催日程、会場（対面/オンライン開催）、投稿期日などについて、慎重に検討します。
- 参加費、企業協賛等の収入見込みや経費の見直しにより、引き続き、収支の改善を図ります。
- 講演会、情報交換会など、新企画の可能性を慎重に検討します。

(2) 春季カンファレンスの他、CIEC で開催される各種研究会や研究交流会の企画・運営案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながらより一層の周知拡大を目指します。

(3) 春季カンファレンスの経験や運営ノウハウを、PC カンファレンスや各種研究会等における運営に還元し、CIEC 全体のさらなる発展に寄与することを目指します。

小中高部会

1. 2021 年度活動報告

(1) 2021PC カンファレンス（オンライン開催）の運営協力

・基調講演２　8 月 21 日 10：00－11：00

テーマ：テクノロジーが広げる外国語学習の一歩先 ～ STEAM につながる学びの可能性 ～

登壇者：岩居弘樹（大阪大学サイバーメディアセンター・教授）

・シンポジウム２　8 月 21 日 13：30－15：30

テーマ：「探究」の一歩先へ ～STEAM 教育を考える～

パネリスト：岩居弘樹（大阪大学サイバーメディアセンター・教授）

中島さち子（(株) steAm 代表取締役社長／音楽家／数学研究者／STEAM 教育者）

紺谷正樹（元：中学校技術科教員／現：群馬大学教育実践センター講師）

木村優里（明治学院大学・助教/東京学芸大こども未来研究所）

司会：興治文子（東京理科大学教育支援機構教職教育センター・准教授／CIEC 副会長理事）

・イブニングセッション

CIEC サタデーカフェ拡大版 ～みなさん！「GIGA スクール構想」順調ですか？～

主催者：平田 義隆(京都女子中学校高等学校・CIEC 小中高部会代表)

共催者：CIEC 小中高部会世話人

⑵　研究会（3 回）

①　第 126 回研究会

テーマ：高等学校新指導要領における「データサイエンス」について

開催日 2021 年 11 月 21 日(日)　14:00 － 16:00(Zoom によるオンライン開催)

講師　大橋真也氏(千葉県立千葉中学校・千葉高等学校)

②　第 127 回研究会

テーマ：「1 人 1 台とデジタル・シティズンシップ」について

開催日 2022 年 1 月 05 日(水)　19:00 － 21:00(Zoom によるオンライン開催)

講演　芳賀高洋(岐阜聖徳学園大学)

③　第 128 回研究会

テーマ：小学校における GIGA スクール構想の教育効果について

～新指導要領下における教育変化の現状について～

開催日 2022 年 6 月 26 日(日)　14:00～16:00(Zoom によるオンライン開催)

講師　齊藤勝(帝京平成大学)

浦野裕司(杉並区立桃井第三小学校)

村上剛志(江戸川区立葛西小学校)

⑶　CIEC サタデーカフェの開催及び運営

第 4 回：2021 年 7 月 17 日(土)20:00～21:00

テーマ：小学校におけるプログラミング教育の取り組み ～高校情報Ⅰへどうつなげるか～

話題提供者：森棟 隆一(白百合学園中学高等学校)・壁谷 祐亮(白百合学園小学校)

第 5 回：2021 年 9 月 18 日(土)20:00～21:00

テーマ：高校生が「海女」の魅力を VR 映像を制作・発信するまで

話題提供者：黒田 昌志(三重県立鳥羽高等学校教諭)・水野 拓宏(㈱アルファコード代表取締役 CEO 兼 CTO)

第 6 回：2021 年 10 月 16 日(土)20:00～21:00

テーマ：主婦と変人が創り出す新たな学びとは

話題提供者：河口 紅(NPO 法人さんぴぃす理事長、兵庫県立大学非常勤講師)

大脇 巧己(NPO 法人さんぴぃす事務局長)

第 7 回：2021 年 11 月 20 日(土)20:00～21:00

テーマ：プログラミング教育における、はじめの一歩～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～

話題提供者：慶徳 大介(3rdschool)

第 8 回：2021 年 12 月 18 日(土)20:00～21:00

テーマ：学校教育でのクリティカルシンキング、教科教育、生活指導、プロジェクト(総合)

話題提供者：若林 靖永(CIEC 会長、京都大学経営管理大学院経営研究センター長)

第 9 回：2022 年 1 月 15 日(土)20:00～21:00

テーマ：町の高校生が考える地域の魅力化

話題提供者：石谷 正(北海道霧多布高等学校)

第 10 回：2022 年 2 月 19 日(土)20:00～21:00

テーマ：ICT の 3 文字の中で大切なのはどれでしょうか?

話題提供者：伊藤 正徳（聖徳学園中学高等学校校長）

第 11 回：2022 年 4 月 16 日(土)20:00～21:00

テーマ：デマ・フェイクニュース・ディスインフォメーションそしてネタ

話題提供者：山田 夕子(社会医療法人愛仁会)

第 12 回：2022 年 5 月 21 日(土)20:00～21:00

テーマ：GIGA スクール構想の現場より/GIGA スクール構想の現状と課題・今後について

話題提供者：大橋 剛(札幌市立大谷地小学校)

第 13 回：2022 年 6 月 18 日(土)20:00～21:00

テーマ：情報科　新カリキュラムについて

話題提供者：柴田 直美(日本女子大学附属高等学校)

(4)　その他

・CIEC 春季カンファレンス 2022（オンライン開催)小中高生参加協力

2. 2022 年度活動方針

・ 教育 DX について考える

2019 年度より始まった GIGA スクール構想により、全国の小中学校では一斉に 1 人 1 台環境が整備された。それに伴い、文部科学省からは教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進も掲げられている。しかし、そう簡単に推進することもできない事情も抱えている現場も多く苦慮しているところもある。そこで、教育 DX とはそもそもどういったことなのか理解することから始め、これからの学校はどうあるべきなのかを考えていきたい。

・ 大学入試共通テストへの「情報Ⅰ」の導入について　～「情報Ⅰ」のあり方について考える～

高等学校では 2022 年度から共通教科「情報」の科目が「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」に再編され、2025 年度入試より大学入試共通テストにおいて「情報Ⅰ」が導入されることがすでに決定されている。これにより、高等学校の現場では教育方法が大きく変化していかざるを得ない状況になっているが、現在のところ入試に向けた動きが特に認められない。そこで大学入試を見据えた「情報Ⅰ」今後のあり方について考察し、理解を深めていきたい。

・ ノートテイキングに関わる記憶や学習成果への影響について

近年、学校現場では 1 人 1 台環境の整備が進み、デジタル化が急速に進んでいる。そのような状況で、教科書やノートもデジタルに移行しつつある。その反面、ノートが紙からデジタルに移行することによる記憶や学力の変化にかかわる研究もおこなわれ、様々な議論を呼んでいる。ここでは、現在行われている研究に触れ、これからの教育現場でのノートテイキングの考え方について議論できればと考える。

具体的な活動

(1)　研究会の実施（基本的には全てオンライン開催の予定）

・GIGA スクールに関わる問題

・オンライン教材における著作権の問題（2）

・小学校プログラミング教育から見る大学入試共通テスト情報導入への問題

(2)　2022PC カンファレンス（つくば国際会議場）への協力

(3)　CIEC サタデーカフェの運営

(4)　北海道地区において、PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施

(5)　世話人会の実施（年 3 回、関東・関西で開催予定）

(6)　国際活動委員会との連携
(7)　研究委員会との連携
(8)　プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

休止中

生協職員部会

1. 2021 年度活動報告

1)　研究会／企画

８月 PC カンファレンス　セミナー２

テーマ：「2021 年度大学生の学習環境はどう変わったか。」

パネリスト：高瀬敏樹(市立札幌旭丘高等学校)

木村修平(立命館大学生命情報学科)

司会：松葉哲史（法政大学生活協同組合）

高校（と高校生）の変化と大学（と大学生）の PC を利用した学びの変化・PC リテラシの変化を対比する形で報告していただき、高校や地域によって差はあるものの、学習環境へのコロナ禍の影響は限定的であることが確認できた。一方で、コロナ禍とは関係なく GIGA スクール構想等により PC の所有・使用開始の早期化が進み、パソコンが文具のように日常の知的生産のための道具として普及することも期待される。中学・高校・大学と進学するにつれ、利用実態に沿ったスペックが求められるため、それらに合わせたパソコンの選定や使い方・ICT 教育が必要になってくるであろうことも共有されたセミナーとなった。

11 月　第１回勉強会

テーマ：「With コロナでの大学生の学び

～ コロナ禍で入学した大学生たちは、高校・大学で、どのように学んでいるか？」

スピーカー：辰己丈夫（放送大学）、中野 由章（工学院大学附属中学校・高等学校）

2021PC カンファレンス、セミナー２「2021 年度大学生の学習環境はどう変わったか」を開催した中で、さらに大学・高校でどのような学びをしているかを、大学教員・高校教員の立場から報告をいただいた。2 つの報告を受け、報告の辰己氏、中野氏を中心に参加者とのフリーディスカッションを実施した。生協職員、高校教員、大学教員と参加者からの感想報告や報告者への質問が多数寄せられ、特に中高生の教科「情報」の変化を理解することが必要だと感じられた勉強会となった。

(2) 世話人会（関東世話人会計 9 回実施）

2021/7/21、8/19　2021 年 PC カンファレンス打ち合わせ

2021/9/6　PCC 感想交流、勉強会打ち合わせ

2021/9/21、10/14、10/26　勉強会打ち合わせ

2022/2/17、3/17、5/16　2022 年 PC カンファレンス打ち合わせ

2. 2022 年度活動方針

(1) アフターコロナ・ウィズコロナ時代のキャンパス内外の学び、学修環境の変容と学修者の変化を捉え、今後どのような学修支援を目指していくべきか研究する。

⑵ 学生同士の学び合いや経験を継承する場づくりの研究、現状と変化について継続的調査を行う。

⑶ 上記⑴⑵の活動を通じて生協職員の CIEC 会員の増加につとめる。

数理・データサイエンス・AI 教育研究部会

設立目的・趣旨

数理・データサイエンス・AI 教育（MDASH）については、近年、その必要性が急速に高まっており、高等教育においては、すべての学生に対して身に付けるべき知識・技能と位置付けられている。多くの大学ではすべての在学生を対象としてリテラシーレベルの MDASH プログラムを開講している。また、新学習指導要領では小学校１年次～高等学校１年次までデータ分析に関わる内容が必修として配置されている。このように、急速に進んでいる MDASH であるが、教員の知識・理解不足や未経験、指導方法の未確立など解決すべき課題も多く残っている。

このような状況を踏まえ、この度、CIEC 会員に対し、MDASH の課題や様々な取り組みを共有し、新たな教育方法や教材を検討することなどに取り組むことを目的とし、部会を開設することを計画した。

当面の事業計画等

1）研究会：全学教育（高等教育）
　実施時期　2022 年秋～冬
　開催場所　東京（生協会館：ハイブリッド）

2）研究会：新課程入試
　実施時期　2023 年春
　開催場所　東京（生協会館：ハイブリッド）

3）PCC セミナー：初等中等教育におけるデータサイエンス（仮）
　実施時期　2023 年 8 月頃
　開催場所　PC カンファレンス開催地

北海道支部

1. 2021 年度活動報告

⑴　「PC カンファレンス北海道 2021」の開催

【開催概要】

テーマ：コロナ禍を共有するアジアの教育
開催形態：オンライン　https://ciec.hokkaido.jp
開催期日：2021 年 11 月 27 日(土)
　・特別講演 … 11 月 27 日(土) 10:35～12:00
　・分科会発表 … 11 月 27 日(土) 13:00～16:05
主　　催：PC カンファレンス北海道 2021 実行委員会
共　　催：CIEC コンピュータ利用教育学会・全国大学生協連合会北海道ブロック
司　　会：森　夏節（酪農学園大学）
分科会座長：曽我聡起（公立千歳科学技術大学）、石谷　正（北海道霧多布高等学校）
参加者数：63 名
参加料：無料　※論文集 1,000 円

【プログラム】

10:30 – 10:35　開会式

10:35 – 12:00　特別講演（Zoom ウェビナー）

13:00 – 16:05　分科会発表（Zoom ミーティング）

例年 PC カンファレンス北海道（以下、PCCH と略）は、札幌市内及びその近郊と道内各地の大学を交互に会場として開催してきた。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮してオンラインで開催した。本年度も収束の見通しが立たなかったため、オンラインでの開催を決定し、主に Zoom によるオンライン会議と Slack で準備を進め、一度も対面の会議を行わずに開催を迎えた。

昨年は、発表をオンデマンド方式で行い、質疑応答をリアルタイムで行った分科会は、質疑応答が活発ではなかったという反省を踏まえリアルタイムでの発表に変更した。本年度も PCCH2021 特設 Moodle サイト（https://ciec.hokkaido.jp）で、参加登録者のみ発表論文を閲覧できるというセキュアな環境で行なった。発表件数は９件で、うち学生の発表は４件であった。

特別講演は大韓民国と繋いで Zoom のウェビナー形式で開催した。登壇者を含め、38 名の参加があった。

特別講演

演　題：「コロナ禍における韓国の教育事情」

講演者：金子美 氏（高麗大学）

共　催：国際活動委員会

通　訳：鍵本聡 氏（KSP 理数学院/KSP コリア学院）

【開催報告】

まず、高麗大学校の昨年度から今日に至るまでの取り組みについて詳細な報告があった。リアルタイムオンライン講義は、3 つのプラットフォーム（Collaborate、KAFE、YouTube）から選択可能で、必ず録画を行うことが求められており、録画した講義のプラットフォームとしては、Commons と YouTube（どちらも Blackboard と連動）が使用されたとのこと。さらに、授業の基準や聴講生への対応、出席確認方法、著作権問題、実際の教員の操作手順などの報告があった。現在は他の大学も含め様々な方法を通じてオンラインに慣れてきている状況とのこと。

次に小中高校生のオンライン学習支援の報告があった。KERIS（韓国教育学術情報院）が運営している様々なプラットフォームが提供する具体的なサービスについて、教師支援の「EDUNET」、「ITDA」、「知識セムト」、学生学習支援の「e 学習の場」、「デジタル教科書」、クラス支援の「ウィドゥラン」の詳細な説明があった。現在は対面授業がおこなわれているとのこと。

質疑応答では参加者からウェビナーの Q&A 機能やチャットを使って質問を募り、講演者から回答してもらうなど双方向でのやり取りが活発に行われた。

分科会は、発表 15 分、質疑応答 3 分で行なった。事後のアンケートでは、質疑応答の時間をより長くするべきであるとかチャットを活用すべきとの指摘があった。

学生プレゼンテーションスキル賞は、公立千歳科学技術大学理工学部情報システム工学科の滝見拓夢さんの「モチベーショングラフによる感情分析を用いた自己分析支援ツールの開発と提案」に決定した。

⑵　北海道における大学１年生を対象にした情報教育に関する調査

COVID-19 の影響により規模を縮小したものの、データを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されている。

2. 2022 年度活動方針

⑴　PC カンファレンス北海道 2022 の開催

開催形態、テーマ、開催期日等未定であるが、10 月か 11 月に開催する予定。

⑵　支部研究会の開催

時期、会場は未定ですが、データサイエンス教育に関連するテーマでの研究会の開催を予定している。

⑶　北海道における情報教育に関する調査の実施

引き続き北海道の大学１年生を対象にした調査を計画している。

九州支部

1.　2021 年度活動報告

2021 年度は、ホスト校を鹿児島大学として 2 年ぶりに九州 PCC をオンラインで開催し、新しい形での IT フェアを実施した。ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとする情報生活サポート研究会により、教員、学生、生協職員の交流の多様化および対面での交流が困難な事態への対応力の向上を目指し、Slack のワークスペースを立ち上げて気軽に討論できる環境を整えた。

2.　2022 年度活動方針

新たに佐賀大学の米満先生が CIEC 理事に就任され、更なる CIEC 九州支部の発展が期待されています。九州 PC カンファレンスは、教員、学生、生協職員が共に学び、成長する場であり、ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけではなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2022 年度に引き続き実施する九州 PCC の開催地・開催校の調整が出来次第、アナウンスをする予定である。情報生活サポート研究会では、ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとして研究活動が継続されるが、教員、生協職員、学生の協同の中で、新しい時代における大学生協の役割を確かなものにする九州の大学生協と CIEC 九州支部（知の協同組織）が一体となった活動を推進するために、Slack、Gather を用いた会員交流機会による支援方法等を模索する。

資料２：中期活動計画中間報告

中期活動計画(1)　組織運営の健全性確保

【担当】若林靖永、中村泰之

①学会という組織の健全な運営を実現し続けるために、「財務状況」と「会員数」について、体系的で精緻なモニターを行っていく

・　財務状況については、「剰余金の減少が回避できているか」をチェックする。
・　会員数については、「会員数の減少が回避できているか」をチェックする。

●直近はコロナの影響もあるかもしれないが、個人会員の減少傾向は続き、特に教員の会員の減少が続いている（2011 626名から2020 525名に、16%減）。そのため、個人会員の会費収入も減少している（2011 4,548,000円から2020 3,855,000円）。

②財務状況と会員数のどちらについても、量的な拡大や改善を目指した数値目標を中期的には掲げない。

・　財政的な収入源や会員数について、規模的な拡大目標を掲げることが「学会」という組織には相応しくないと考えられる。
・　ただし、上記 3-①で説明した通り、単年度ごとの数値チェックは実施する。
・　なお、財政面については、数年前までの「赤字予算を組んでいた状態」からは脱しており、現状では特に逼迫していない。

●最後にある通り、経費支出の見直しで赤字予算は脱却し、剰余が黒字になるようになっている。

●従って、会員を大きく増やそうという目標は立てないが、CIEC の更なる活動の展開に向けて新会員を迎え、収入を増やし、新たな事業を進めていくという方向は追求したい。

中期活動計画(2)　学会及び大会名称の変更

【担当】長岡健、熊澤典良、松下慶太

【活動経緯】

(1) ミーティング（第１回）

日時：2021年11月8日 18:00～20:00
場所：オンライン
参加者：長岡、熊澤、松下
内容：

① 活動方針の決定 ▶ 「名称変更ありき」で考えるのではなく、名称変更の議論をCIEC内で深めることを意識する。
② 活動スケジュールの決定 ▶ 2023年8月総会にて方針を報告する。

(2) ミーティング（第２回）

日時：2022年1月24日 18:00～20:00
場所：オンライン
参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、小野田哲弥

内容：

① 「名称変更の必要性」に関する意見交換 ▶ 「合意形成可能な新名称提案」か「大胆な名称提案」かに関する議論を通じて、当初から「合意形成可能な新名称提案」を前提とはしない方がいいということで合意。

② CIEC 内での議論を深めるための仕掛けの必要性を確認 ▶ 2022PCC において、関連テーマでのセミナーを企画することで合意。

(3) ミーティング（第３回）

日時：2022 年２月 28 日 18:00〜20:00

場所：オンライン

参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、白土由佳、橋本諭

内容：

① 「名称変更の必要性」に関する意見交換 ▶ 学会のシンボリックな活動としての PCC のあり方には高い関心が期待できる。「学会名称」よりも「PCC 名称変更」を提起しながら、PCC の新たな姿を探っていく方向性が好ましい。

② 2022PCC におけるセミナー企画・運営を有志の若手メンバーと合同で進めることで合意。

(4) ミーティング（第４回）

日時：2022 年３月 28 日 18:00〜20:00

場所：オンライン

参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、角南北斗

内容：

① 「名称変更の必要性」に関する意見交換 ▶ 「学会名称」にしろ「PCC」しろ、「名称変更」の必要ことは重要だと考える。

② 2022PCC におけるセミナー企画・運営を有志の若手メンバーと合同で進めることで合意。

(5) ミーティング（第５回）

日時：2022 年４月 25 日 18:00〜20:00

場所：オンライン

参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、村上正行

内容：

① 「名称変更必要」に対する機運はあまり強く感じない。「なぜ今か」という根拠が見えにくい。

② 学会名を「学術分野との関連」で名づけるのか、「集いのシンボル」として名づけるのかの議論が必要ではないか。現在の「コンピュータ利用教育学会」は後者に位置付けられるので、なおさら「なぜ今か」が不明確な印象

③ 研究者だけでなく、小中高教員、生協職員など多様なメンバー構成が CIEC の特徴なので、一部のメンバーだけが賛同する（一部のメンバー寄りになる）名称にすることは、学会の方向性の大きな変更になる。

④ 今後の大きな変革の象徴的行為として「名称変更」するのであれば、「その主体は誰か？」が揺るがないことが必須ではないか。また、改革の中身が見えないと他のメンバーが「後押しする」ことは難しいと考えられる。

(6) ミーティング（第６回）

日時：2022 年５月 23 日 18:00〜20:00

場所：オンライン

参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、松葉哲史

内容：

① 「名称変更の必要性」に関する意見交換 ▶ 「学会名称」の必要性は感じない。むしろ、「コンピュータ」

と「教育」の２つのワードが入っているのでしっくりくる印象。「PCC名称変更」についても特に必要性は感じないが、変更してもいいのではないかと思う。

② PCC については、若手の生協職員が積極的に参加してくれるような内容に変更していくことは望ましいと考える。

(7) ミーティング（第７回）

予定日時：2022年７月４日 18:00〜20:00

場所：オンライン

参加者：長岡健、熊澤典良、松下慶太、平田義隆

【WTとしての見解】

(1)「学会名称を変更しよう」という機運は低い。「やるなら反対はしない」というスタンスが感じられ、「やるべき！」という強い意見はなかった。

(2)学会活動の「変化」が感じられないために「名称だけ変更する」というニュアンスの理解があるのではないかと推測している。

(3)仮に「学会名称の変更」を推進するのであれば、現時点では「学会を変革する」というメッセージの発信が弱いので、まずはそれが必要だと考える。そのためには会長／三役／理事会などが強いリーダーシップを発揮し、具体的な「改革の中身」を出していくことがもとめられるのではないか。

(4)「PCCの名称変更」については、カンファレンスの中身自体のバージョンアップが同時並行的進んでいると理解しているメンバーには受け入れやすい状況にあると判断している。

(5)このまま中身のバージョンアップを積極的に推進することが好ましいと判断する。

(6)ただし、「PCC」という名称の変更については、相応しい変更のタイミングを探るべきと考えている。

【活動予定】

(1)月１回程度のヒアリングを継続する。

(2)2022PCCにおけるセミナーの実施：

① 新たなPCCの姿を探る方向へと進める。

②ただし、「PCC名称変更」との連動は検討を継続

(3)2022年10月を目処に方向性を絞る：

①学会名称変更を進めるか？

②PCC名称変更を進めるか？

中期活動計画(3)　団体連携

【担当】北村士朗、宿久洋、井内善臣、杉田豊

1. 大学生協との関係強化

- 大学生協に提案する「CIEC活用法」や、会員生協の諸活動の表彰を継続検討中。
- PCCへ向けて、会員生協、特にCIEC団体会員生協の参加促進を行っていく
- 教育ITフェア、団体会員セッション、セミナー（特に職員部会主催）のPR等)。
- CIECによる会員生協の諸活動の中から優秀or/andユニークなものを表彰2. スポーツ関係
- SCSC（スポーツキャリアサポートコンソーシアム）への入会申請中
  （コンソーシアムの活動が一時停止しており、新年度理事会の開催待ち）3. 上記以外

- 情報関係のコミュニティ（日本システムアドミニストレータ連絡会、日本 IT ストラテジスト協会等）との連携を模索していく。

中期活動計画(4)　K-12(小中高校生)の参加者化

【担当】中村泰之、髙瀬敏樹、平田義隆

【活動指針】

1. 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを目指した仕組み・仕掛けを構築する。
2. 「K-12 と学会が連携すること」の意義に関するメッセージを積極的に発信する。
3. 「K-12 の参加者化」の推進と合わせて、幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、 大学、社会人教育(人材育成)、オルタナティブ教育といったように「ライフステージ のあらゆる段階における教育のフルラインナップ」を視野に入れた学会活動を目指して いく。

【活動の経緯】

ワーキングチームとしてオンラインでミーティングを持ち、初回では、活動計画の内容について確認をしたのち、春季カンファレンス、PCC のどちらかは発表テーマを ICT 利用教育としてはどうかという提案が出された。また、U-18 参加者の学ぶ場として、論文の書き方、効果的なプレゼンの方法についてのチュートリアルの場を持ってはどうかという意見も出された。

初回のミーティングを受けて、2 回目以降のミーティングで、U-18 向けのチュートリアル（論文の書き方、プレゼンの仕方）を PCC の開催に向けて準備する案も出たが、小中高の先生からの要望を調査してからの方が良いのではという助言もあり、検討を継続することとなった。また、初回のミーティングで出された春季カンファレンス、PCC で U-18 の発表募集を行う際、どちらかは ICT 利用教育のテーマに限定してはどうかという意見については、いずれもまだ開催歴が浅いこと、募集も現在増えている段階であることから、もう少し様子を見てからということになった。一方で、段階的な対応として、U-18 を募集する際のテーマの一つとして ICT 利用教育の枠を設けて募集するという可能性が提案された。

【今後の方針】

以上の活動経緯を踏まえ、中期活動計画２年目においては、以下の取り組みを予定している。

- 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを目指した仕組みとして、これまで小中高部会を中心に継続されてきた「サタデーカフェ」を今後も発展させていくために、ワーキングチームとしても、積極的に協力していく。
- 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを効果的に実現するために、U-18 向けのチュートリアル（論文の書き方、プレゼンの仕方など）の開催に向けて、現場の小中高の先生方の意見、要望を調査しながら、最も有効な内容、開催方法を検討していく。

中期活動計画(5)　重点テーマに関する研究促進

【担当】寺尾敦、菅谷克行、宿久洋

活動計画（５）WG では、活動計画検討のために２回の会議を行った。第１回は現状確認と今後の WG の進め方につい

て実施し、以下のメモの議論を行った。第２回はヒアリングを実施した。

＜第１回会議メモ＞

日　時：２０２２年１１月１日（月）１５時～１７時

参加者：寺尾、菅谷、宿久

（１）重点テーマについて

２つの提示されている重点テーマ

・　「データドリブンの教育イノベーションを核とした教育研究・教育実践の推進」

・　「越境学習やアクティブラーニング等の参加体験型学習に関する教育研究・教育実践の推進」

について検討した。

前者については、少しテーマを絞りすぎているのではという意見が出た。後者については，重要なテーマであるが、方法論としては定着しているものであり、改めて取り上げて推進することもないだろうという意見が出た。

その結果、前者を含む形で、初中高等教育すべてにおいて重要視され、変化が著しい分野として「数理・情報」分野を取り上げ、「数理・情報教育」を重点テーマとして、研究部会を設置し、推進してはという提案がなされた。

（２）今後のWGの進め方について

情報教育、統計教育について、他学会でも精力的に活動しておられるCIEC会員の先生方にこの分野の動向、他学会での取り組みなどをヒアリングすることになった。ヒアリング対象候補は辰巳丈夫先生（放送大学）、竹内光悦先生（実践女子大学）の２名の先生方である。

＜第２回会議メモ＞

日　時：１２月６日（月）１８時３０分～２０時

参加者：菅谷、宿久、竹内光悦先生（実践女子大学）

重点テーマ「数理・情報教育」に関するヒアリング：統計教育の近年の動向について

詳細は省略

＜研究部会設立＞

「数理・データサイエンス・AI教育研究部会（略称，MDASH研究部会）」の設立申請を行った（2021年度第3回理事会で審議）。

中期活動計画(6)　情報発信のチャネル拡大

【担当】角南北斗、興治文子、北村士朗、髙瀬敏樹、橘孝博

２ヶ月に１回のペースでメンバーでオンラインミーティングを実施し、情報や意見を共有した。その中で、CIECの特徴は多様性にあり、その多様性をどのようにサポートするか、というテーマが議論の中心となった。CIEC への入会はイベント参加がきっかけの人が多いと思われるが、参加者側も運営側もメンバーが固定化の傾向にあることが、結果として幅広い層の参加をサポートできていない現状になっているとWGでは見ている。もちろん「情報発信のチャネル拡大」という観点では、コンテンツを作りメディアに展開することを検討すべきであるが、限られたメンバーの努力だけでは広がりを作れない。まずはイベント実施や設計を通じて多様な会員の声を聞くことが、結果として会員がCIECとして活動する機会を増やし、それが発信すべきコンテンツを生み出すことにもつながるだろうという話になった。WG では今後も定期的にミーティングを実施し、また様々な立場の人にも参加してもらうことで、具体的な施策を提案できるようにしていくつもりである。

中期活動計画（7）　ダイバーシティ＆インクルージョンの推進

【担当】若林靖永、中村泰之、北村士朗、長岡健、白土由佳、森夏節、鈴木大助、興治文子

2021 年 11 月から 3 月までに計 4 回にわたってメンバーでオンラインミーティングを行い、意見交換を行った。主な内容は、⑴若手や女性会員の活躍の機会について、⑵新しい学会活動の在り方について、⑶PCC への学生・生徒の参加の在り方について、⑷学会発表と会員資格、参加費の在り方について、⑸サタデーカフェからの発展の方向性について、である。

実際に実現しつつある取り組みとしては、PCC 実行委員会での若手の貢献や、理事改選のタイミングで多様性のある理事の割合増加などが挙げられる。

今後の方針としては、⑴障がいを持つ方、子育てや介護との両立が必要な方などへの学会活動の支援策の検討、⑵ ハラスメントに対する委員会設置、⑶これまでに議論した内容の発展や実現化である。

資料 3：CIEC 活動報告

2021 年 7 月

1 日（木）　2021 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会　開催公示
17 日（土）　小中高部会「第 4 回サタデーカフェ」（オンライン）
18 日（日）　2020 年度監事会（大学生協会館）
25 日（月）　2021PC カンファレンス第 5 回実行委員会(オンライン)

2021 年 8 月

12 日（木）　定例三役会議(オンライン)
19 日（木）　2020 年度第 5 回理事会（オンライン）
20 日（金）　2021PC カンファレンス（オンライン）
　テーマ「ニューノーマル時代の教育・学習」
　2021 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会(大学生協会館)
21 日（土）　2021PC カンファレンス（オンライン）
22 日（日）　2021PC カンファレンス（オンライン）
　会誌編集委員会（オンライン）
23 日（月）　2021PC カンファレンス（オンライン）

2021 年 9 月

3 日（金）　定例三役会議(オンライン)
18 日（土）　小中高部会「第 5 回サタデーカフェ」（オンライン）
26 日（日）　研究委員会(オンライン)

2021 年 10 月

9 日（土）　会誌編集委員会（オンライン）
10 日（日）　三役会議(オンライン)
16 日（土）　小中高部会「第 6 回サタデーカフェ」（オンライン）
25 日（月）　2021 年度第 1 回理事会（オンライン）

2021 年 11 月

13 日（土）　九州 PC カンファレンス
19 日（金）　生協職員部会「第 1 回勉強会」（オンライン）
20 日（土）　小中高部会「第 7 回サタデーカフェ」（オンライン）
21 日（日）　CIEC 126 回研究会（小中高部会主催）（オンライン）
　テーマ「高等学校新指導要領における「データサイエンス」について」
27 日（土）　PC カンファレンス北海道 2021(オンライン)

2021 年 12 月

1 日（水）　『コンピュータ＆エデュケーション Vol.51』発行
7 日（火）　定例三役会議(オンライン)
12 日（日）　研究委員会（オンライン）
18 日（土）　小中高部会「第 8 回サタデーカフェ」(オンライン)

2022 年 1 月

5 日(日)　定例三役会議(オンライン)
CIEC 127 回研究会（小中高部会主催）(オンライン)
テーマ「「1 人 1 台とデジタル・シティズンシップ」について」
15 日（土）　小中高部会「第 9 回サタデーカフェ」(オンライン)
23 日（日）　2022PC カンファレンス第 1 回実行委員会（オンライン）

2022 年 2 月

7 日（月）　定例三役会議(オンライン)
19 日（土）　小中高部会「第 10 回サタデーカフェ」(オンライン)
27 日（日）　2022PC カンファレンス第 2 回実行委員会（オンライン）

2022 年 3 月

2 日（水）　定例三役会議(オンライン)
19 日（土）　2022 春季カンファレンス（オンライン）
20 日（日）　2021 年度第 2 回理事会（オンライン）
2022PC カンファレンス第 3 回実行委員会（オンライン）
26 日（土）　会誌編集委員会（オンライン）

2022 年 4 月

1 日（金）　2022PC カンファレンスサイト公開
2022PC カンファレンス論文投稿受付開始（4 月 30 日締切）
2022PC カンファレンスイブニングセッション受付開始（4 月 30 日締切）
CIEC 学会賞公募開始（4 月 30 日締切）
13 日（水）　定例三役会議(オンライン)
16 日（土）　小中高部会「第 11 回サタデーカフェ」(オンライン)
17 日（日）　2022PC カンファレンス第 4 回実行委員会（オンライン）
18 日（月）　2022PC カンファレンス教育・IT フェア出展申込開始（5 月 31 日締切）
2022PC カンファレンス団体会員発表セッション申込開始（5 月 31 日締切）

2022 年 5 月

9 日（月）　選挙公示（6 月 13 日立候補締め切り）
15 日（日）　2022PC カンファレンス時間割編成会議（大学生協会館）
18 日（水）　定例三役会議（オンライン）
21 日（土）　小中高部会「第 12 回サタデーカフェ」（オンライン）
30 日（月）　2022PC カンファレンスポスター発行

2022 年 6 月

1 日（火）　『コンピュータ＆エデュケーション Vol.52』発行
　　2022PC カンファレンス参加申し込み開始（7 月 31 日締切）
　　2022PC カンファレンス論文投稿開始（6 月 30 日締切）
18 日（土）　小中高部会「第 13 回サタデーカフェ」（オンライン）
19 日（日）　定例三役会議（大学生協会館）
　　21 年度第 3 回理事会（大学生協会館・オンライン）
26 日（日）　CIEC 128 回研究会（小中高部会主催）（オンライン）
　　テーマ「小学校における GIGA スクール構想の教育効果について
　　～新指導要領下における教育変化の現状について～」